

## 「電柱も喜ぶ犬の散歩のマナー」

新緑の美しい季節。愛犬との散歩にも一番気持ちのいい時期になりました。マース ジャパンがドッグオーナーを対象に実施した調査では、約3割が愛犬との散歩の時間に癒されるとし、5割以上が愛犬の存在が運動機会につながると答えています。特に、運動機会につながるという点について、60歳代以上のドッグオーナーで見ると、7割以上がそのメリットを実感しています。いずれの結果からも、愛犬との散歩がドッグオーナーの心身両面によい効果を与えていることが伺えます。そしてもう一つ、散歩のマナーについての調査でも興味深い結果がありました。ペットの飼育マナーをどの程度守っているかという質問に対して、ドッグオーナーでは9割が、「公道での排泄物の処理」や「他人への配慮」を行っていると答えています。一方、ペットを飼育していない人たちに、周囲のペットオーナーの犬の散歩マナーをどう思うか聞いたところ、両項目とも実践しているドッグオーナーは5割弱という厳しい評価でした。つまり半分以上のドッグオーナーが愛犬との散歩中のマナーを十分に守っていないと見られていたのです。

散歩のマナーとして、最も問題になるのは排泄物の処理です。愛犬の排泄による悪臭や汚れなどは、その近隣住民にはもちろんのこと、その道を利用する全ての人にとって不快なものだから当然です。そして、意外にも、犬の排尿が電柱やカーブミラーなどにも悪影響を与えているという報告さえあります。ある自治体では、これまでの状況から、通常30年程度の寿命を有するカーブミラーでも、頻りに犬にマーキングされたものは三分の一の10年程度にまで寿命が短くなってしまっていると見えています。犬の尿に含まれるナトリウムなどの塩類、尿素などは鉄の錆びを引き起こす一要因でもあり、頻りにこの被害を受けている電柱やカーブミラーなどの寿命が短くなるというのは、科学的にも納得がいくものです。愛犬の散歩中の排泄がこんなところにも影響を及ぼす可能性があるということに驚く方も多いかもしれません。

飼育マナーでは、排泄は散歩中にさせないというのが原則です。しかし、マーキングという犬の習性を考えると散歩中に一切排泄をさせないというのは簡単なことではありません。ウンチについては持ち帰るとしても、オシッコについてはそれもなかなか難しい相談です。そこで最近推奨されているのが、「エチケット・ウォーター」です。これは、愛犬がマーキングした箇所に水をかけ、排泄による臭いや汚れを軽減できるように、散歩時に持参する水のこと。使用済みのペットボトルなどに水道水を入れるという簡単な準備だけで、誰もがすぐに実行できるマナーとして、最近実行する人が増えてきています。

ほほえましいしぐさに道行く人も癒されたり、知らない人との間に会話が生まれたり、犬たちはどんな散歩道でも人気者です。そんな人気者の散歩もマナーがあってこそ。散歩時には必ずリードを着用し、排泄物を持ち帰るのはもちろんのこと、これからは新しい習慣として、エチケット・ウォーターを活用してみたいはいかがでしょうか。犬の習性を理解し、それに対応したマナーを考える。愛犬との散歩が、ドッグオーナーと愛犬だけでなく、その道を使う全ての人にとっても気持ちのよいものであるためにちょっとした気配りをするのが、地域全体で考える「人とペットの共生」の基本といえます。

\*\*\*

マース ジャパンは、製品や社会貢献活動を通して、人とペットが共に暮らす笑顔あふれる社会の実現を目指しています。このニュースレターは、マース ジャパンが人とペットの共生をテーマにした研究や支援活動を目的に1997年に設立したリサーチセンターである非営利団体コンパニオンアニマル リサーチ(CAIRC)とマース オーストラリアがサポートするコンパニオンアニマルに関わる活動を推進しているPIASと協力して発行しています。

お問い合わせ: マース ジャパン リミテッド 広報室 小川 電話:03-5434-3334